

福島県立図書館は令和6年7月で森合移転40周年を迎えます！

福島県立図書館



40th
森合移転40周年記念

図書館だより no.248

2024（令和6）年7月14日発行 編集・発行 福島県立図書館
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787 <https://www.library.fcs.ed.jp/>



福島県立図書館は、昭和59年7月に、昭和33年11月から26年に渡って使用した福島市松木町の建物（現・福島市立図書館）から、現在の場所（福島市森合）に移転しました。令和6年7月に、移転開館40周年を迎えます。これを記念し、講演会や展示、イベントを開催します。

講演会

◆福島県立図書館 森合移転40周年記念事業 令和6年度福島を生きる講座 第2回

「ふくしまの建築の昭和 - 福島県立図書館が生まれたころ -」

講師 日本大学工学部 建築学科 教授 速水 清孝(はやみ きよたか)氏

当館が昭和4年に創立されてから森合に移転した昭和の頃の福島市の建築についてお話しいただきます。

日時 7月27日(土) 14時から15時30分まで(開場13時30分)

※ 事前申込制です。お申込みは、来館・電話・図書館ホームページより受け付けています。

展示

◆企画展示

「『館報あづま』で振り返る 福島県立図書館 森合移転40周年」

当館発行物である『館報あづま』の過去の号を中心に展示し、移転後の当館の歩みなどを紹介します。

期間 7月5日(金)から9月4日(水)

場所 企画展示コーナー

◆展示

「新聞で見る森合移転開館」 *移転当時の写真も展示します！

移転までの過程や移転開館時の様子をご覧ください。

期間 7月20日(土)から31日(水)

場所 センターホール



ノベルティ配布

期間中、各カウンターにおいて「40周年記念特製しおり」を配布します。

期間 7月5日(金)から31日(水) ※無くなり次第終了

しおりは
全8種類！

この他にも、見学ツアーやクイズラリーなどのイベントを予定しています。
詳しくは、移転40周年記念イベントチラシをご覧ください。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・社会・自然

『宇宙人のためのせんりゅう入門』

暮田 真名／著 左右社 2023.12 911.4/㍻ 23Z

地球に落ちてきた宇宙人と、宇宙人を拾った「川柳人」の大学院生。同じ五・七・五の17音で読む川柳と俳句の違いはなんだろう？ そんな疑問から、2人で暮らす7日間がスタートします。対話形式で書かれているので、川柳に馴染みのない方にも読みやすい一冊です。

『ぼくたちには「体育」がこう見える 「体育」は学びの宝庫である』 為末 大／編著 大修館書店

2024.2 375.49/㍻ 24Z

学生時代には身近だった「体育」ですが、大人になるとあまり馴染みがありません。しかし、著者によると実は日常生活において生かせる点が多いそうです。

陸上競技に長く携わってきた著者とは異なる視点を持つ、様々な立場の人との対話を通して、体育に対する印象がガラリと変わるかもしれません。

『エスカレーターのかがかく 交通・輸送手段から考える』

元田 良孝, 宇佐美 誠史／共著 成山堂書店

2024.1 528.5/㍻ 241

交通工学の研究者が、エスカレーターの歴史や構造・安全性などを分かりやすくまとめています。エスカレーターで「交通」と聞くと馴染みのない感じがありますが、「エスカレーターは人を運搬する道具」(97ページ)ですから、車などと同様の方法を用いた分析ができることがわかります。本書では実際に運べる人数や、時折話題になる歩行の是非などが考えられており、身近な存在であるエスカレーターの意外な一面を楽しめる一冊です。

児童・児童図書研究

『日本の昔話百科 ビジュアル版』 石井 正己／著

河出書房新社 2023.12 J388.1/イ

20世紀に入り社会の変動やメディアの発達により、昔話が語られる場や機会は急速に失われてきています。しかし、日本の昔話の歴史は古く、奈良時代の『古事記』『日本書紀』等をはじめ、平安時代の『今昔物語集』鎌倉時代の『宇治拾遺物語』等に、今日の昔話と呼ばれるものに類似する話を見つけることができます。日本は昔話記録の宝庫とも言えるのです。本書は、そのような日本の昔話が絵巻や絵本の形で記録されているものを紹介しています。いわずと知れた「浦島太郎」や「桃太郎」「猿蟹合戦」等が、色鮮やかな絵と共に解説され、よく読むと現代に伝承されている話と細部が異なるものを見つけることもできます。他にも、日本で初めて翻訳された『グリム童話』についての解説や教科書と昔話の関わり、昔話と民話の研究等についても収録されています。図版が多いので、パラパラめくって見るだけでも楽しめる一冊です。

雑誌・新聞

夏ならではの情報や楽しみについて特集された雑誌をご紹介します。ぜひご活用ください。

『栄養と料理』 女子栄養大学出版部 Z596/E2
2024.8(第90巻第8号)

特集「夏のスポーツと栄養」

『婦人画報』 ハースト婦人画報社 Z051/F5
2024.8(No.1453)

特集「夏の納涼スイーツ」

『岳人』 ネイチュアエンタープライズ Z786/G3
2024.7(通巻第925号)

特集「夏山 国立公園・国定公園の山」

『和楽』 小学館 Z051/W2

2024.8・9(第24巻第4号, No.217)

特集「この夏は、「名画」と「絶景」の旅へ」

『Birder』 文一総合出版 Z480.5/N1

2024.6(第38巻第6号, 通巻450号)

特集「涼感! とっておき鳥見ハイキング」

地域

『郡山樹木散歩 気になる樹』 荒井 賛／著
街の灯こおりやま 2024.1 L652.7/A1/1

樹木医である著者による、郡山市内の樹木の特徴などを解説した一冊。街路樹や開成山公園にあるものなど、身近に存在している樹木を中心に紹介しています。この本で特徴的なのは、著者の樹木医としての視点からの解説です。たとえば「一本松(アカマツ)」の項目では、郡山市総合体育館近くにあるアカマツに対して行われた治療の様子を知ることができます。この本を片手に散策しながら、いつもとは違う観点で樹木を眺めてみるのも良いかもしれません。

『実践ダイバーシティこおりやまと私 微力は無力じゃない』 阿部 のり子／著
生活思想社 2024.4 L361.4/A2/1

市職員として働くかたわら、多様性理解を発信する市民団体を立ち上げた筆者による活動記録です。

仕事を通して性の多様性について深く考えるようになった筆者。職務だけでなく、自分ひとりでも何かできることはないかと「ダイバーシティこおりやま」を立ち上げます。職場内の軋轢や思わぬトラブルなど、困難に見舞われながらも、参加者からの声を胸に、バイタリティに富んだ活動の記録がつづられています。

活動に携わった方々からのメッセージも多く寄せられています。活動内容に共感する人、これから活動をはじめたい人に勇気を与えてくれる一冊です。